

## 特別講演 午前の部 1

### 理想的な口腔癌診療

広島大学大学院医系科学研究科口腔腫瘍制御学

柳本 惣市



特別講演

#### 略歴

##### ■略歴

- 1996年3月 長崎大学歯学部卒業
- 1996年6月 長崎大学歯学部附属病院第一口腔外科・研修医
- 1998年4月 長崎大学歯学部附属病院第一口腔外科・医員
- 1999年4月 長崎大学歯学部第一口腔外科・助手
- 2006年4月 長崎大学病院・講師
- 2022年1月 広島大学大学院医系科学研究科口腔腫瘍制御学・教授

##### ■資格

- 日本口腔外科学会「口腔外科専門医・指導医」
- 日本がん治療認定医機構「がん治療認定医(歯科口腔外科)」
- 日本口腔腫瘍学会「口腔がん専門医・指導医」
- 日本口腔科学会「認定医・指導医」
- 日本口腔インプラント学会「口腔インプラント専門医」
- 日本睡眠歯科学会「認定医・指導医」

##### ■受賞歴

- 第51回日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞
- 日本口腔腫瘍学会 学会賞

わが国では、1980年代に癌が死亡原因の1位になり、現在では、人口10万人当たりの癌年間死亡者数も300人を超えている。一般的には2人に1人は癌に罹患し、4人に1人は癌で亡くなる時代と言われ、その中であって口腔癌は人口10万人当たり6～7人の罹患率であり、どちらかという希少癌である。わが国の「がん研究10か年戦略」では、希少癌として“口腔癌”が明記されており、重点研究領域とされている。将来的には、口腔癌診療の均てん化が行われた前提で、ある特定の診療施設に集めて診療経験を蓄積させる集約化への方向性も検討されるかもしれない。口腔癌の年間罹患者数を広島県の人口に当てはめて考えてみると年間180人弱が推定されるが、食生活の欧米化や生活様式の変化による影響からか、最近の全国的な疫学研究では、口腔癌は増加傾向にあるとのデータも示されている。

そのような状況の中で、症例数などの診療実績のみならず、人材育成・臨床研究さらに病診連携の実施状況までが評価されることが想定され、その状況下で確固たるプレゼンスを示し、多くの症例に携わるためには診療ガイドラインなどに基づいた標準治療を行うことが求められる。

本講演では、口腔癌の標準治療について解説し、更なる治療成績向上のために行うべき工夫などについて考えてみたい。さらに超高齢社会におけるフレイルという観点から高齢口腔癌の治療についても考察する予定である。

## 特別講演 午前の部 2

# AMR に基づく歯科治療における 抗菌薬の正しい使い方

広島大学大学院医系科学研究科 口腔健康科学講座 公衆口腔保健学研究室 教授

太田 耕司



特別講演

### 略歴

- 1995年 広島大学歯学部歯学科卒業
- 1999年 広島大学歯学部大学院歯学研究科 歯学基礎系(口腔細菌学)修了
- 1999年 広島大学 歯学部 附属病院 第二口腔外科 医員
- 2001年 広島大学 歯学部 附属病院 第二口腔外科 助手
- 2002年 広島大学 歯学部 附属病院 口腔再建外科 口腔顎顔面再建外科 助手
- 2003年 広島大学 医学部・歯学部 附属病院 口腔再建外科  
口腔顎顔面再建外科 助手
- 2006年 広島大学病院 口腔再建外科 口腔顎顔面再建外科 診療講師
- 2009年 米国 Forsyth Institute, Department of Immunology へ留学
- 2018年 広島大学病院 口腔再建外科 口腔顎顔面再建外科 講師
- 2019年 広島大学大学院医系科学研究科 公衆口腔保健学研究室 教授  
現在に至る

薬剤耐性（AMR：Antimicrobial Resistance）が国際的な問題となっている。AMRとは抗菌薬の不適切な使用によって薬剤耐性菌が増加することを意味するが、一方で新しい抗菌薬の開発は停滞している。2014年に英国AMRレビュー会はこのまま何らかの対策が行わなければ2050年には世界で薬剤耐性菌による死者数が年間1000万人に達し、がんの年間死亡数を上回ると試算されたことは世界中に大きな衝撃を与えた。このため、本邦では2016年にAMRアクションプランが策定され、その方針の中で抗菌薬の適正使用は大きな柱となった。特に歯科では医科よりも外来で処方されるセファロスポリン系など広域抗菌薬の類用が問題となり、抜歯後における抗菌薬の種類や投薬量は重要な監査項目となった。

このような背景から2017年に、日本化学療法学会と日本外科感染症学会から「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」が出され、埋伏智歯の抜歯、インプラント埋入術等に関する推奨抗菌薬、投薬期間が記載された。また感染性心内膜炎（IE）の誘因として歯科処置による菌血症が関与するため、IE中等度リスク群に対応する歯科手術時の抗菌薬予防投薬が言及されている。一方、同学会から発行された「JAID/JSC 感染症治療ガイドライン」の中では菌性感染症の項目が設けられ、歯周組織炎などの第一選択薬としてペニシリン系抗菌薬が推奨された。近年では日本歯周病学会から「歯周病患者における抗菌薬適正使用のガイドライン」も発行されている。

今回の講演ではAMRの考え方と成果、問題となる薬剤耐性菌、歯科治療時における抗菌薬の正しい使い方について、これまで発行されたガイドラインに基づきながら、若干の私見も加え、講演する。抗菌薬の使用方法について再考し、先生方の日常臨床、また将来のAMR対策の一助となれば幸いと考える。

## 特別講演 午後の部 1

# 口腔外科領域のplastic and reconstructive surgeryをめざして

広島大学大学院医系科学研究科 口腔外科学  
広島大学病院 歯科 口腔顎顔面再建外科

相川 友直



特別講演

### 略歴

- 1990年 3月 広島大学歯学部卒業
- 1994年 3月 大阪大学大学院歯学研究科 修了(口腔外科学第一教室)
- 1994年 4月 日本学術振興会 特別研究員(口腔外科学第一教室)
- 1997年 4月 大阪大学歯学部附属病院 医員(口腔外科学第一教室)
- 1998年 2月 八尾徳洲会総合病院 歯科口腔外科 医長
- 1999年 4月 マサチューセッツ総合病院 内分泌部門 研究員
- 2001年 4月 大阪大学歯学部附属病院 医員(口腔外科学第一教室)
- 2003年 3月 大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室 助教
- 2009年 12月 大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室 講師
- 2019年 8月 大阪大学大学院歯学研究科 口腔外科学第一教室 准教授
- 2022年 1月 広島大学大学院医系科学研究科 口腔外科学 教授  
大阪大学大学院歯学研究科 招聘教授

【はじめに】口腔外科学に着任して半年が経ち、診療の特徴を少しずつ発揮できるようになってまいりました。幸いなことに、同時に着任した口腔腫瘍学の柳本教授と連携して、相補的な診療と人材育成にスムーズに取り組めました。本講演では当科診療領域の現状と今後の発展性について講演させていただきます。

【抄録】当科の目指す専門性は、口唇裂・口蓋裂などの先天異常疾患の治療、顎変形症治療、顎関節外科、インプラントを応用した口腔機能の再建など、plastic and reconstructive surgery とよばれる領域である。医療の発展に伴い治療概念も変わりつつある。

**口唇裂・口蓋裂治療：**歯科的問題を多く含む本疾患に、歯科管理が重要なことは言うまでもなく、外科的治療、矯正歯科、小児歯科、言語治療を含めた一貫治療が望ましい。広島大学病院では唇顎口蓋裂総合成育医療センターが一翼を担い、乳幼児から成人までの適切な時期に必要な治療を提供することで、はじめて治療ゴールに到達できることになる。一方、広島医療圏には継続管理されていない患児もまだ散見される。障害に対する治療策と取り組み、そして歯科医師による継続管理の意義について今一度お話ししたい。

**顎変形症治療：**この20年間で最も大きな発展を遂げた領域の一つで、第一義の目的である安定した咬合獲得は当然なものとして考えられるようになった。すなわち、整容面への配慮、いびきや睡眠関連呼吸障害に対する治療、および顎関節病態に対する治療など、付加的な概念が定着しつつある。治療計画もペーパーサージェリーとモデルサージェリーから、手術シミュレーションとCAD/CAM デバイスを用いたものへと発展した。これらは治療の質の向上にも直結し、患者にも術者にも大きな恩恵をもたらした。

**顎関節外科・咬合外科：**この20年間停滞していた顎関節に対する外科治療は、2019年のマイテックアンカーを用いた関節門板整位手術の導入、2020年の顎関節全人工関節置換術の導入を契機に急速に発展しうる領域になった。誰が手をつけるのか？と悩む重度の顎関節病態も臨床で日立つようになった。下顎頭吸収、変形性顎関節症などの退行性関節病態であるが、難症例に対しても矯正歯科と連携して、咬合外科と顎関節外科の概念で治療に取り組んでいる。

口腔外科は多くの subspecialty に細分化されているが、広島大学で相補的に人材育成に関わりつつ、先端的な医療の提供と人材育成に努めたい。

谷本幸太郎

広島大学歯学部長

広島大学大学院医系科学研究科 歯科矯正学 教授

略歴

1992年 広島大学歯学部卒業

1992年 医療法人社団歯友会赤羽歯科 勤務医

1997年 広島大学歯学部矯正歯科学講座 医員

1999年 広島大学歯学部 助手

2005年 University of California, San Francisco, Visiting Assistant Professor

2007年 広島大学病院 講師

2013年 広島大学大学院医歯薬保健学研究科歯科矯正学 教授

2014年 広島大学 歯学部長補佐

2016年 広島大学歯学部副学部長

2016年 広島大学病院唇顎口蓋裂総合成育医療センター長

2020年 広島大学歯学部学部長

現在に至る

日本矯正歯科学会 理事・認定医・指導医・代議員

日本顎関節学会 理事・専門医・指導医・代議員

日本口蓋裂学会 認定師・評議員

日本顎変形症学会 評議員

中・四国矯正歯科学会 会長

日本再生医療学会 認定医

Edward H. Angle Society Member

## 外科的矯正治療の経過—術後の長期的な安定性の考察—

広島大学大学院医系科学研究科 歯科矯正学  
谷本幸太郎

### 抄録

外科的矯正治療は、上下顎骨の位置関係の不調和が著しく、矯正歯科治療単独では解決の困難な、顎変形症を伴う不正咬合の改善を図るために行われる。近年の顎矯正手術は、手術に関わる技術的な進歩やコンピュータを活用したシミュレーションの発達により、治療の精度が飛躍的に向上するなど、日進月歩の進化を遂げている。また、技術の進歩とともに、世間で外科的矯正治療の有効性が広く認知されるようになり、本治療に対するニーズが高まってきた。広島大学病院においても、下顎あるいは上顎単独の骨切り術に加えて、上下顎移動術が適用される複雑な治療計画が立てられることも多い。一方、下顎後退を伴う骨格性上顎前突などに適用される下顎骨の前方移動術は、従前から後方移動術に比較して術後安定性が得られにくいことが示唆されてきた。下顎枝矢状分割術で分割された後方部分いわゆる近位骨片の関節窩に対する位置付けや骨片の固定法などのさまざまな理由が報告されているが、長期予後に関するデータは限られており、詳細は不明な点が多い。そこで、今回我々は、当院にて下顎前方移動術を適用した外科的矯正治療症例の予後について調査するとともに、術後の顎顔面形態や咬合の長期安定性に関わる要因についての検討を行った。

本講演では、外科的矯正治療症例の予後についての研究結果を報告するとともに、現在の課題と今後の展望について、概説することとした。



正会員・準会員 各位

第61回広島県歯科医学会 併催 第106回広島大学歯学会例会  
大会長 山崎 健次 (広島県歯科医師会会長)  
副大会長 谷本 幸太郎 (広島大学歯学部長)  
準備委員長 本山 智得 (広島県歯科医師会理事)  
準備副委員長 相川 友直 (広島大学大学院医系科学研究科講師)

「第61回広島県歯科医学会 併催 第106回広島大学歯学会例会」の開催について (ご案内)

時下、愈々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
平素より、本大会運営に対しましては、格別のご理解、ご協力を賜り有難く厚くお礼申し上げます。  
さて、来る11月13日(日)標記学会を『口腔外科』をメインテーマに下記日程のとおり開催する運びとなりました。

本学会は、広島大学(担当:医系科学研究科口腔外科学研究室)のご協力のもと、多くの先生方に一般口演やポスター発表にもご参加頂く予定となっております。

ついては、出席をご希望される場合は、下欄申込書にて、**10月14日(金)迄**に広島県歯科医師会学術部宛にFAX(082-261-1720)または、「お申込みフォーム(二次元コード)」にて、お申し込み下さいませようお願いいたします。先生方をはじめスタッフの方々等多数ご出席をお待ちしております。

なお、定員に達した場合や新型コロナウイルス感染症拡大状況により、延期または中止となった場合は、県歯会ウェブサイト(<https://www.hpda.or.jp/>)にてお知らせいたしますので、お含みおきください。

記

日 時 令和4年11月13日(日) 午前8時40分～午後4時35分  
場 所 広島県歯科医師会館2階「ハーモニーホール」他  
定 員 150名

- ・一般口演
  - ・特別講演【午前の部1】  
講師 広島大学大学院医系科学研究科 口腔腫瘍制御学 教授 柳本惣市 氏  
演題 「理想的な口腔癌診療」
  - ・特別講演【午前の部2】  
講師 広島大学大学院医系科学研究科 公衆口腔保健学 教授 太田耕司 氏  
演題 「AMRに基づく歯科治療における抗菌薬の正しい使い方」
  - ・特別講演【午後の部1】  
講師 広島大学大学院医系科学研究科 口腔外科学 教授 相川友直 氏  
演題 「口腔外科領域の plastic and reconstructive surgery をめざして」
  - ・特別講演【午後の部2】  
講師 広島大学歯学部長・広島大学大学院医系科学研究科 歯科矯正学 教授 谷本幸太郎 氏  
演題 「外科的矯正治療の経過—術後の長期的な安定性の考察—」
  - ・ポスター発表 (9:30~15:00)、ポスター討論 (13:00~14:00)
  - ・ランチョンセミナー (12:10~13:00)  
グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社 (共催)  
※ランチョンセミナー定員 50名。当日朝、受付にて軽食整理券をお配りします。
  - ・業者展示 (9:30~15:30)
  - ・質疑応答 (16:05~16:35)
- \*時間については変更することがあります



申込フォーム

【FAXでのお申込み】

広島県歯科医師会事業第二課(FAX:082-261-1720) 行(担当:丸子)

出席申込書

11/13(日)「第61回広島県歯科医学会 併催 第106回広島大学歯学会例会」に出席します。

郡市会名 所属施設名		氏名	
スタッフ氏名			
出席者合計	( )名	TEL	